

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

公表日: 2021年1月22日

事業所名: 特定非営利活動法人 ぶるうみ

サービス種類: 児童発達支援・放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	事業所の2階スペースを活用し、会社全体の環境整備を行ったことにより、各曜日の利用者の配置など、さらなる工夫がしやすくなり、スペースの確保に繋がっている。	はい:23 わからない:3 保育参観的なデイの見学があると嬉しい。	各利用者の荷物が混ざらないように整理を行う。安全にケアが行えるように、スタッフの動線を検討しながら、各曜日により、快適なスペースが確保できるよう話し合う。参観については、特に日を定めず、いつでも観に来ていただくよう、声かけを行う。
	2 職員の適切な配置	看護師の体制を強化したことにより、呼吸器を使用した利用者への対応がしやすくなった。 保育士も新たに配置した。	はい:25 わからない:1 高度な専門性を持ったスタッフが多いと思う。 放課後デイでは珍しく、専門的なPT、OTが配置されており、大変助かっている。	看護師、保育士を新たに配置したことにより、ケア、活動面共にさらに充実した内容となるように時間配分していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	完全にバリアフリー化されている。車椅子用トイレにベッドを完備している。一昨年、浴室にリフトを導入し、利用者の状態により、活用している。	はい:23 わからない:1 どんな風に1日をすごしているのか、写真では伝わらない部分があるので、直接見れたら嬉しい。	今後も利用者が過ぎしやすいように、環境整備していく。 入浴、トイレ、フロアが分かれているので、利用者に分かりやすい設備になっている。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の清掃、換気、感染症対応としてアルコール消毒を行っている。空気清浄機の設置、布団クリーナーの使用。利用者の状況により、ベッド、布団を組み合わせ、配置し、利用者が活動に参加しやすいように配慮している。	はい:24 わからない:2 子どもに適した体温管理をこまめにしてくれている。清潔感があり、過ごしやすそうだと思う。	利用者の安全を確保し、心地良く過ごせる空間造りを心掛ける。部屋の気温、湿度にも配慮していく。帰宅時間や活動内容を考慮した上で、配置を検討していく。室内の消毒も継続して行う。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	多職種で計画書を作成している。振り返りは、その都度行うようにしている。 デイのスタッフ会議を実施しており、その他、必要に応じて、話し合いの機会を持っている。		必要に応じ、職員間で話し合いの場を持ち、情報交換、情報共有に努めていく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在のところ、実施していない。 事業所や学校関係者の見学を積極的に受け入れ業務改善につなげている。		今後、実施する予定は無いが、その必要性の有無については、職員間で話し合っていく必要がある。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	職員の資質向上のため、外部研修があれば職員に案内し、参加できるように勤務の調整を行っている。		コロナ禍であり、研修機会が少ないが、リモート研修なども増えてきており、積極的に参加できるようにしていく。 事業所全体の会議の中で、多職種による内部研修を継続して行っていく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	送迎時の聞き取り、モニタリングを通し利用者や保護者のニーズの把握に努めている。個別支援計画作成会議を行い、個々のニーズや課題を分析し、各専門職が立案し、作成している。	はい:26 親の思いをちゃんと理解し、くみ取ってくれたうえで活動やリハビリが行われている。 その時々親の希望がしっかりと反映されている。 もう少し利用できる日が増えたら良い。 親身に相談のってくれ、本人の成長を促す取り組みを考えてくれている。 安心して利用出来ている。	保護者からの聞き取り内容を職員間で周知していく。 適切なモニタリング内容となるよう努める。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	リハビリや制作などの個別活動と、ゲーム性のある遊び(勝敗、ルール、順序立て、思考など)を重視した集団活動を適宜組み合わせた計画の作成を行っている。		保護者からの評価を得られている。今後も、個別性、集団性をバランス良く組み合わせた計画書の作成に努める。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	利用者の発達や身体の状態を各専門職が評価し、個々に応じた課題や目標を具体的な内容で記載している。		今後も各専門職が中心となり、支援項目を設定していく。保護者に分かりやすいよう、記載する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
適切な支援の提供(続き)	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	利用者のその日の状態に合った支援を行っており、多職種で相談しながら無理なく過ごせるように配慮している。適切な支援へとつながるような個々に合った計画書となっているため、支援の実施へとつながっている。	はい:26	支援中にも、スタッフ間で確認を行うようにし、また、勤務日数の少ないパート職員とも共有できるように心がけていく。同じ活動の中でも個々に応じた方法で支援出来ている。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	活動プログラムは保育会議で話し合っているが、内容によって道具や姿勢などは、セラピストが発案し、個々が一番安楽な姿勢で参加出来る様に検討することで、活動に拡がりが出ている。	はい:26 季節や成長に合わせて遊びを考えてくれていて、満足している。クッキング、野菜の収穫、運動会、その他、色々な事を季節に合わせて楽しませてくれている。デイから帰るといつも、やりきった感いっぱい、ひたすら眠っている。	1ヶ月に1回、デイスタッフで会議を持ち、他の内容に加え、活動プログラムについても話し合っていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	放課後デイに関しては滞在時間が短いため、保護者の希望により、入浴やリハビリを優先して行う場合もある。活動に関しては制作や短時間で楽しめるゲームなど内容を工夫している。長期休暇時には集団活動に重点を置き、異年齢の子どもたちがルール性のあるゲームなど活動を楽しんでいる。	本当に利用出来て良かった。いつも感謝、感謝、感謝です。 限られた時間の中で毎週色んな工夫、アイデアを凝らしてくれていると思う。 学校では出来ない体験を色々させてもらい、満足している。 イベントやリハビリが色々あり、親も子ども兄弟も楽しめている。	コロナ終息後、長期休暇を利用し、放課後デイの子どもたちの外出を実施できるように計画する。平日は時間の使い方を日々検討し個別・集団活動ともに楽しめる内容となるよう工夫を重ねる。平日は、児童発達の子どもの外出の機会を増やしていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	季節が感じられる活動を多く取り入れている。畑作業や散歩など屋外活動や、図書館などへの外出。季節ごとの制作やルール性のあるゲームなど幅広い年齢の子どもたちが楽しめるよう工夫している。運動会や屋内球技などで体を動かせるような内容も取り入れている。	眠っていることも多いと思うが、楽しんで通所していると思う。 行く度に違う遊びや活動のプランを立ててくれていて良いと思う。	各年齢に合った経験が出来、楽しめる活動内容となるよう、検討していく。 活動に関して、送迎時などに、保護者から嬉しい声が聞かれることも多い。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	送迎の関係もあり、支援開始前にスタッフ全員でその日の支援内容を確認することは難しい。その日の子どもたちの体調や状態に合わせ、各専門職がその都度確認作業を行いながら、リハビリ、活動、入浴などのケアを行っている。スタッフの連携が取れているため、特に支障は無い。		支援開始前、全員での確認作業は今後も困難だと考えられるが、活動時間、入浴の順番など明確にし、スタッフが動きやすいよう時間配分する。スタッフの連携が取れているため、特に支障は無い。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	朝と同様、送迎などもあり、支援後にスタッフ全員が揃うのは難しいが、その日気が付いた点や問題点があれば話し合い、次回の支援につながるように情報の共有に努めている。		支援後にスタッフ全員が揃うことは難しいが、気が付いた点は、その日のうちに話し合い、情報共有につとめていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援の記録に関しては、複数のスタッフで確認し、正確で保護者に分かりやすい内容となるように努めている。支援に関しての問題点が出てきた場合には、改善出来るよう検証している。		複数のスタッフでノートに記載していくため、ケアの記録の重複に気を付ける。不明点や疑問点がある場合には、その都度、スタッフ間で確認を行う。問題点が出てきた場合は、改善できるよう検証していく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	半年に1回、送迎時、訪問、電話などの方法でモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。		保護者から、丁寧に聞きとりを行い、個々に適した計画を立てていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	可能な限り勤務調整を行い、支援会議へ出席している。が、不可能なことも多いのが現状である。		支援会議への出席の機会を増やしていけるような勤務体制を取っていく。
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	学校からの見学依頼を積極的に受け入れている。学校送迎時の引き継ぎを大切にし、教育現場との情報共有に努めている。保育所等訪問支援事業を通し、さらに連携が深まっている。囑託医にカンファレンスに出席していただいている。		コロナ禍ではあるが、密にならない時間帯をみて、今年度も可能な限り、見学依頼を受けた。送迎時の引き継ぎ内容を確実にスタッフに伝達できるようにする。
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	当事業所の訪問看護からデイをご利用されるケースも多く、情報共有している。訪問看護が無いケースの場合は各利用者を通じ、医師からの診療診断書や情報提供書で情報を得ている。		今後も連絡体制の整備に努めていく。
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	養護学校、地域の小学校に入学時など、相談支援員を通しての学校への引き継ぎが必要であったケースはある。電話連絡にて、児の様子やケアについて詳しくお話しした。必要に応じ、書類の作成を行う。		今後も支援内容について十分な情報共有ができるよう、連携に努めていく。十分な引き継ぎが出来るよう、日々の記録の正確性を上げていく。
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	必要に応じ情報提供を行うが、現在のところ、そのようなケースは出ていない。		今後、卒業児が出た時は支援内容について情報提供が出来るよう、日々の記録を確実にやっていく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達支援センターや、発達障害者支援センターなどの専門機関と連携する機会は現時点ではまだ無い。		専門機関での研修の受講は今後積極的に検討し、参加していく。
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在のところ、保育園、認定こども園との交流は行っていない。放課後等デイサービスも同様である。地域の図書館の読み聞かせなどに参加する機会はあり、交流の機会になっている。	はい:5 どちらともいえない:1 わからない:18 コロナが早く落ち着いてくれることを祈る。 障害のない子どもと活動する機会があるかは、特に重要視していない。	コロナが終息したら、地域の幼稚園や保育所との交流は検討しても良いかと考えるが、重症心身の子どもたちなので、感染のリスクがあるため、現在は積極的には行っていない。保護者からの、分からないの返答が多い事については、改善方法を考える。保護者へのブログの周知も進めていく。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	今年は新型コロナの影響で自粛したが、例年は事業所の行事を、近くの老人施設のホールを借りて行っている。行事に招待はしていないが、近隣で畑を借りており、地域住民との交流の機会となっている。	事業所の行事を、近くの老人施設のホールを借りて行っている。 行事に招待はしていないが、近隣で畑を借りており、地域住民との交流の機会となっている。	今後、行事の形式を話し合い、地域住民に参加していただけるような内容にしていくことも検討する。
1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用者負担に関しては契約時、契約書または重要事項説明書から抜粋し、説明するよう努めている。支援の内容については丁寧に説明するよう、心掛けている。	はい:24 どちらともいえない:1 わからない:1 毎回、体調など様子を細かく報告してくれるので助かる。	契約時に、分かりやすい説明を心掛けていたが、十分でないと思われる部分については、必要に応じ、随時説明していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
保護者への説明責任・連携支援	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画を示しながらの丁寧な説明は出来ていない。保護者に目を通していただき、不明な点は指摘していただくよう、お願いしている。	はい:25 いいえ:1	保護者と一緒に目を通し、説明する機会を作るよう、検討する。不明な点について指摘があった場合は、随時説明していく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレント・トレーニングは実施していない。	はい:18 いいえ:1 わからない:7	ペアレントトレーニングについては、スタッフの知識、技術が必要なため、今後行っていかは検討する。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	日々の様子は連絡ノートに記載している。発達の状況については、送迎時やモニタリング時に保護者と話し、保護者の意向もふまえた課題や目標を設定している。必要に応じ、保護者と連絡を取り、共通理解となるよう努めている。	はい:26 連絡帳や送迎時の情報のやり取りだけでなく、メールで連絡も取れるので対応が早く、ありがたい。どこよりも安心して預けられるので助かっている。	今後も子どもたちの発達状況や課題について、共通理解ができるよう、連絡ノートだけでなく、直接話をする機会をできるだけ作り、より良い支援につなげていく。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者より相談があった場合、スタッフ間で話し合うなど意見交換し、対応を検討している。	はい:23 どちらともいえない:1 わからない:2	日頃から、保護者が兄弟時も含めた子育ての悩みを話しやすい関係づくりをしていく。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母の会は作られていない。保護者会は行っていないが、親子で参加できるイベント時を開催し、保護者同士が交流できる機会を作っている。	今年は状況的に難しい。	コロナが終息したら、イベントを開催し、保護者が交流できる機会を作りたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	保護者からの苦情があった場合は、職員間で周知し、訪問、電話などで迅速に対応し、改善に努めている。	はい:19 わからない:7	苦情があった場合には迅速に対応し、スタッフ間で周知していく。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	子どもたちとの意思の疎通を図るため、それぞれの表出の仕方や伝達の方法をスタッフ間で共通認識できるよう情報の共有に努めている。	はい:25 わからない:1	子どもたちに丁寧に声掛けを行い、意思疎通が出来るよう時間をかけて関わっていく。スタッフ独自の判断とならないよう、家庭でのコミュニケーション方法も保護者に尋ね、伝達方法を共有していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	活動の様子は、定期的にブログに掲載している。事業所全体で通信を定期的に発行している。	はい:24 どちらともいえない:1 わからない:1 いつもブログを楽しみにしている。	ブログが閲覧されるよう、発信していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	ご利用開始時に、ブログへの写真の掲載などについて、保護者に書面にて許可をいただいている。	はい:24 わからない:2	今後も注意して取り扱っていく。 わからない、の評価が無くなるよう対応していく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル、感染症対応マニュアルは策定している。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大もあり、新たにマニュアルの見直しを行った。保護者に対して周知の徹底に努めていく。	はい:20 どちらともいえない:2 わからない:3 感染症対応マニュアルでサービス利用について具体的に示されているので安心して利用出来ている。	感染症対応については、保護者に文書をお渡ししているが、緊急時対応、防犯については作成中。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	不定期に火災に対する避難訓練を行っている。消防署に依頼し、実際に通報や、消火訓練を行っている。他の災害に対する避難訓練も実施していく予定。	はい:19 わからない:7	現在、避難訓練は不定期であるため、定期的を実施していく。火災訓練を主に実施しているが、あらゆる災害を想定し、訓練を行い、非常時に備えていく。災害時は近隣施設と連携を図っていけるようにする。 わからない、の評価が多いため、保護者への発信方法を検討する。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	研修の機会がある時には、出来るだけ参加できるように勤務調整を行っている。		今後も研修機会の確保に努める。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	転倒、転落が予測される場合は、ベッドの端にクッションなどをかませ、対応している。医療行為を行う場合、痛みや危険を軽減するため、複数のスタッフで身体を補助することがある。車いすのベルトなどは作成時に保護者の同意を得られている。必要に応じ、計画書への記載している。		今後も、危険が生じると判断した場合には、保護者の理解を得たうえで、状況に応じ対応していく。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	子どもの食事に関しては、ご自宅で準備していただいている。アレルギーに関しては、ご利用開始時に聞き取りを行っている。活動時に食品を使用する場合は、複数のスタッフで確認を行う。動物や植物アレルギーの場合は、外出先に配慮している。医師からの指示書は取っていないが、血液検査の結果のデータはいただいている。		今後も細心の注意を払っていく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハットの作成は行っている。事例が起こった場合は必ず全体会議で報告し、事故を未然に防げるように共有の徹底を図っている。		ヒヤリハットの事例が起こった場合、詳細に記録に残し、会議などで共有し、事故防止につなげていく。